

復興を高山の棚田から願う

奮闘記 16



3. 11 P m 2 : 4 6 東日本大震災、津波は一瞬にして全てのものを呑み込んでしまった…茫然自失。
日本列島に住む限り誰でもが被災者になり得る。「千年に一度」は明日かも知れません。被災地の復興を高山の地から願い棚田の保全に入る。

【3月13日(日)】



待ちに待った運搬車が入る。荷物の運搬はこれで楽になる。事故・ケガしないように取扱の説明を受ける。皆真剣です。



3/2 遅れを取らないようにジャガイモの植え付け準備に入る。男爵・メークインの種芋を3/13 植付する。光りの恵、土の恵を受け、すくすく育てと願う。



新しいスコップ、鍬などの備品も整った。棚田の保全に向けて進みだす。只今、寒起こしではないが、右近の金の鳥探しに奮闘する。「あ～土も石も我らを童心に帰す」



越冬野菜のタマネギ・エンドウは厳しかった今冬を無事乗り越えた。只今、光合成を盛んにし、日一日と成長している。ガンバレ！

【3月16日(水)】



遊休地解消を目指しひたすらススキの株起こしに奮闘する。これがまた結構楽しいものです。耕しながらも地震・津波・原発へと…被災地に思いを馳せる。



根お越しは順調に進む。棚田、下から五枚目の田に鍬が入る。この耕作地は肥沃で大きい石もなく優良地、棚田の顔となる予感がする。ひと鍬・ひと鍬入れていく…そして棚田の番人になっていく。

【高山地域情報】

右近の郷に春がきた

3月27日は活動日でしたが、第18回高山真菜まつりと重なり活動は中止。農のふるさと協力隊のメンバーも真菜まつりのスタッフとしてまつりを盛り上げました。

会場は真菜摘み、ミニ史跡めぐり、力石ためし大会、高山右近のシンポジウム、模擬店では焼きソバ、つきたての餅、地元的新鲜野菜販売など各ブースに長い列ができました。



頭上に鯉の真菜流しを楽しみ、存分に真菜を摘む



高山右近の力石を使っての力石ためし大会に歓声が沸く！



北摂の太鼓グループの演奏で会場は盛り上がる